

小平市教育委員会議事録（甲）

—— 1 2 月定例会 ——

平成29年12月19日（火）

平成29年12月 教育委員会定例会（甲）

開催日時 平成29年12月19日（火） 午後2時00分～午後3時42分

開催場所 505会議室

出席委員 古川正之 教育長
森井良子 教育長職務代理者
山田大輔 委員
高槻成紀 委員
三町章 委員

説明のための出席者 有川知樹 教育部長
出町桜一郎 教育指導担当部長兼指導課長
松原悦子 地域学習担当部長
余語聡 教育総務課長
坂本伸之 学務課長
荒木忍 教育施策推進担当課長
相澤良子 地域学習支援課長
照井幸枝 中央公民館長
湯沢瑞彦 中央図書館長
星野賢二 学務課長補佐
関口優一 学校給食センター所長
本橋義浩 指導課長補佐
中村和哉 指導主事
窪田隆徳 指導主事
小影俊一 指導主事

書記 宮崎淳 教育総務課長補佐、塚本真也 教育総務課主事
傍聴者 1名

午後2時00分 開会

（開会宣言）

○古川教育長

ただいまから教育委員会12月定例会を開会いたします。

（署名委員）

○古川教育長

はじめに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は高槻委員及び私、古川

でございます。

次に、非公開にて取り扱う議題を決定したいと存じます。

本日の議題のうち、事務局報告事項（7）、及び議案第39号から第42号までは、人事案件または個人のプライバシーを含んだ内容でございますので、非公開で取り扱いたいと存じます。

お諮りいたします。

ただいま申し上げました議題について、非公開にて取り扱うことに賛成の方は、挙手願います。

—賛成者挙手—

○古川教育長

挙手全員でございますので、非公開と決定いたしました。

それでは、本日の議題に入ります。

（事務局報告事項）

○古川教育長

はじめに、事務局報告事項を行います。

事務局報告事項（1）市議会12月定例会について、説明をお願いいたします。

○有川教育部長

事務局報告事項（1）市議会12月定例会についてを報告いたします。

市議会12月定例会は、11月28日から12月20日までの会期により開会中でございます。

以下、教育委員会に関係するところにつきまして、日程を追って、報告いたします。資料No.1をご覧ください。

11月29日から12月1日までの3日間には、一般質問が行われました。一般質問は25人の議員から59件の質問が出され、うち、教育委員会に関連するものが、15件ございました。

5日には総務委員会が開催され、先の教育委員会で議決いただきました、「平成29年度小平市一般会計補正予算（第5号）」が審査され、可決すべきものと決定いたしました。

翌6日開催の生活文教委員会においては、教育委員会に関する審査はございませんでした。

なお、12月20日の本会議最終日にて、補正予算につきまして、議決がなされる予定でございます。

○古川教育長

次に、事務局報告事項（2）平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果の概要について、説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

事務局報告事項（２）平成２９年度児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果の概要についてを報告いたします。資料No.2をご覧ください。

本調査の目的は、教育委員会といたしましては、教育課程や指導方法等にかかわる小平市の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、小平市の教育行政施策に生かすこと、また、学校といたしましては、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図ることでございます。

はじめに、教科に関する調査の結果でございます。

１ページの（１）「各教科別の平均正答率」をご覧ください。

小学校の平均正答率は、全実施教科において、東京都の平均正答率と同等または上回っております。

中学校の平均正答率は、国語、数学、理科、英語において、東京都の平均正答率を上回っております。

２ページの（２）「各観点別の平均正答率」の「ア 小学校第５学年」をご覧ください。

「教科の内容」全体では全ての教科、「読み解く力に関する内容」全体では国語、社会、理科において東京都の平均正答率を上回っております。

算数では、「教科の内容」「読み解く力に関する内容」ともに複数の項目で、東京都の平均正答率を下回っております。

課題の一つである算数の「比較・関連付けて読み取る力」「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」に関連する問題を３ページに掲載しております。

数量関係の学習においては、表を活用してデータを処理する技能を定着させ、統計的な問題解決の素地を育てる指導の充実を図る必要がございます。

３ページ中段から４ページの「イ 中学校第２学年」をご覧ください。

「教科の内容」全体では国語、数学、英語、「読み解く力に関する内容」全体では全ての教科において東京都の平均正答率を上回っております。

社会では、「教科の内容」「読み解く力に関する内容」、理科では、「教科の内容」の複数の項目で、東京都の平均正答率を下回っております。

課題の一つである社会の「社会的な思考・判断・表現」に関連する問題を５ページに掲載しております。歴史の学習においては、ほかの時代との共通点や相違点に着目し、各時代の特色を捉えることによって、歴史の大きな流れを理解させるための指導の充実を図る必要がございます。

５ページ中段の（３）「各教科別正答数分布」をご覧ください。本調査においては、教科ごとに、全員が正解できるようにならなければいけない問題と、達成することが期待される問題が設定されております。その問題数をそれぞれ「習得目標値」「到達目標値」と表記しております。

「イ 小学校社会」では、習得目標値は２３問中９問で、正答数が８問以下の児童の割合は、小平市が５．２％、東京都が７．５％となっております。また、到達目標値は２３問中１９問で、正答数が１９問以上の児童の割合は、小平市が４２．５％、東京都が３９．４％となっております。

6 ページの「ウ 小学校算数」をご覧ください。東京都と比較して、「到達目標値達成の児童の割合」が2.4ポイント下回っております。立ち戻る指導や繰り返し指導を徹底していく必要がございます。

「ク 中学校数学」をご覧ください。東京都と比較して、「習得目標値未達の生徒の割合」が3.3ポイント低くなっております。一方、「到達目標値達成の生徒の割合」も1.0ポイント下回っております。到達目標値に届いていない生徒の誤答の要因やつまづきを分析して授業改善を図る必要がございます。

次に、質問紙調査の結果でございます。

8 ページの「児童・生徒質問紙調査」をご覧ください。

各質問事項に対する肯定的な回答の割合について、上段に小学校、下段に中学校の結果を示しております。これからのご説明は東京都の平均値との比較で申し上げます。

まず、(1) 自分自身に関する調査項目の結果に関連して申し上げます。小平市の小・中連携教育においては、キャリア教育の基盤の一つを「自尊感情の向上」としてしております。他者とのかわりを通じて自分のよさを知り、そのよさを生かす経験ができる取組を、市内の研究推進校の成果を共有し充実させてまいります。

(2) 家庭学習に関する調査項目の結果に関連して申し上げます。特に、読書の時間に関する質問において、中学校では、30分以上と回答した生徒が、東京都の平均値と比較して1.3ポイント下回っており、全国学力・学習状況調査においても同様の傾向が見られました。

小学校・中学校ともに学校図書館の効果的な活用も含め、読書の習慣化に向けた取組を充実させることが課題と捉えております。

(3) 学校における学習に関する調査項目の結果から申し上げます。授業において、児童・生徒が何をどのように学ぶかについて見通しをもつことや、何ができるようになったかを自覚できるようにすることが、学習意欲の向上や学習内容の定着につながります。授業における目標の提示や振り返りの時間の確保は、さらに徹底をするよう、学校に指導・助言を行ってまいります。

○古川教育長

次に、事務局報告事項(3)平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果の概要について、説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

事務局報告事項(3)平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果の概要について、を報告いたします。

資料No.3をご覧ください。

本調査の目的は、児童・生徒の体力が低下している状況に鑑み、東京都の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、また、これらの取組を通じ

て、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。

調査の対象につきましては、小学校・中学校に在籍している児童・生徒であり、特別支援学級につきましては、児童・生徒の実態に合わせて実施するものとなっております。

別紙1をご覧ください。青字になっている数値は都の数値を上回っているもの、赤字になっている数値は都の数値を下回っているものでございます。

はじめに、児童・生徒の体格調査の結果でございます。

別紙1の1ページ及び2ページの左上をご覧ください。

例年同様に、小学校、中学校ともに、身長及び体重の校種別平均値は都の平均値を同等または下回っております。

次に、児童・生徒の体力・運動能力の調査結果でございます。今年度の小平市の校種別平均値と都の平均値を比較しますと、小学校、中学校の男女ともに、上体起こし、長座体前屈、立ち幅とびの平均値が、都の平均値を上回る結果となっております。特に中学校女子は多くの種目で都の平均値を上回っております。

3ページをご覧ください。各種目で設定された得点の合計である体力合計点と5段階の総合評価の割合を示しております。体力合計点は、小学校、中学校男女全学年において、都の平均値を上回っております。

また、5段階評価の割合は、都の分布と比較しますと、特に中学校女子は、A層、B層で全ての学年において上回っております。

別紙2をご覧ください。小平市の4年間の結果を比較しますと、本年度は中学校の男女の上体起こし、反復横とび、持久走、体力合計点などで最も高い数値を示しており、中学校の体力の伸びが見られております。

再度、別紙1の2ページをご覧ください。考察欄に記載しておりますが、この結果の要因といたしまして、学校が調査結果の分析・考察を行い、さまざまな運動能力を考慮した指導内容の工夫がなされていること、小平の小・中連携教育による体力向上の取組が、中学校における平均値の増加の結果につながっていると考えられます。

課題といたしましては、小学校、中学校ともに、男子は握力の結果から筋力の向上、また小学校は男女ともに反復横とびの結果から敏捷性の向上が課題であると捉えております。

次に、児童・生徒の生活・運動習慣等の調査結果でございます。別紙3をご覧ください。幾つかの調査項目を抜粋してご報告をいたします。

2ページをご覧ください。

3の平日の運動をする時期についてでございますが、小学校では、休み時間や下校後も多くの学年で上回っており、特に小学校女子は昨年度と比較して全学年で割合が増加しております。学校以外での運動をする機会が増えてきております。中学校では、運動する機会が朝始業前と放課後の時間に限定をされております。

4ページ目をご覧ください。

6の運動やスポーツをもっとしたいと思いますかという質問に対しては、男子は小学校高学年から中学校にかけて「運動をもっとしたい」と運動への意欲を持続し続けております。その一方で、女子は中学校第1学年になると運動への意欲が減少する生徒もいますが、運動への意欲を持続し続ける生徒もいて、都の割合を上回っている結果となっております。

7の体育の授業は楽しいと思いますかという質問に対して、昨年度と同様に小学校ではおおむね9割の児童、中学校ではおおむね8割の生徒が、体育の授業は楽しいと感じております。その一方で、中学生になると「あまり思わない」「思わない」という割合が増えてきており、体育の授業の興味・関心について二極化する傾向がございます。

今後の対策でございますが、現在開発を進めております、「楽しみながら運動プログラム」を、平成30年度より全校で実施してまいります。児童・生徒の体を動かすことへの興味・関心をより一層高め、児童・生徒の運動の日常化を図り、「運動が苦手」であったり、「運動が嫌い」であったりする児童・生徒が、楽しみながら運動に取り組むことができ、結果的に体力の向上につながるよう努めてまいります。

○古川教育長

次に、事務局報告事項（4）寄附の受領について、説明をお願いいたします。

○有川教育部長

事務局報告事項（4）寄附の受領についてを報告いたします。資料No.4をご覧ください。

1は、洋式トイレ4基及び床面改修等を小林製薬株式会社様より、小平第五小学校及び小平第十二小学校への指定寄附として、ご寄附いただいたものでございます。

2は、アルミ製スタンダード車椅子1台を第一企業株式会社様より、花小金井図書館への指定寄附として、ご寄附いただいたものでございます。

3は、金1万円を匿名希望の方より、育英基金への指定寄附として、ご寄附いただいたものでございます。

4は、耕運機1台を本田技研工業株式会社様より、小平第二小学校への指定寄附として、ご寄附いただいたものでございます。

この場をおかりしてお礼申し上げます。

○古川教育長

次に、事務局報告事項（5）小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、説明をお願いいたします。

○有川教育部長

事務局報告事項（5）小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、報告いたします。

今回報告いたします承認事業は、資料No.5のとおりでございます。

詳細につきましては、余語教育総務課長から説明いたします。

○余語教育総務課長

本日報告いたしますのは11件でございます。うち新規申請は2件でございます。

受付番号（60）親子新聞スクラップ講習会は、朝日学生新聞社全国教育研究協議会多摩東部朝日会が主催する事業で、新聞のスクラップづくりを通して、情報の活用能力や読解力の向上を図ることを目的とした事業でございます。

受付番号（61）ゆうやけ子どもクラブ40周年コンサートは、同実行委員会が主催する事業で、放課後等デイサービス、ゆうやけ子どもクラブの40周年を記念して、コンサートや音楽劇などを実施する事業でございます。

そのほかの9件は、いずれも例年、もしくは過去に承認しているものでございます。

○古川教育長

次に、事務局報告事項（6）事故報告Ⅰ（11月分）について、説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

事務局報告事項（6）事故報告Ⅰ（11月分）について、報告をいたします。

11月の事故報告Ⅰの交通事故、一般事故につきましては、資料No.6のとおりでございます。詳細につきましては、ご説明いたします。

今月ご報告する交通事故はございませんでした。中段をご覧ください。一般事故は小学校管理下で1件、中学校管理下で4件でございます。

今月の事故報告件数は昨年度同時期と比べ、交通事故は2件から0件へ減少し、一般事故は1件から5件へと増加しております。

それでは、中学校の部活動中の事故④と⑤についてご報告いたします。

まずは④のバスケットボール部の活動中の事故についてです。

11月18日土曜日、午前11時20分ごろ中学校2年生男子生徒は、体育館内でパスの受け取り練習をしていました。ボールを受け取る際に、ボールを左手親指に当ててしまいました。当該生徒はその場にうずくまってしまったため、コートの外側にある椅子に座らせアイシングを行いました。当該生徒はアイシング中に一瞬意識を失い、けいれんを起こして椅子から倒れてしまいました。顧問教諭はけいれんが治まらないことから、救急車を要請し、当該生徒を病院へ搬送しました。診察の結果、けいれんの原因については特定はされませんでした。指についてはレントゲンの結果、捻挫と診断されました。翌週の月曜日に顧問教諭より安全な練習の進め方について、改めて生徒に指導を行いました。当該生徒は現在は元気に登校しているという報告を受けております。

次に、⑤の陸上部の練習中の事故でございます。11月25日土曜日の午前10時30分ごろ、2年生男子生徒は、校舎内の廊下で折り返しリレーの練習を行っていました。折り返しの際に、

勢いの調整がうまくいかず、配膳室のガラスに右手をついてしまい、ガラスが割れてしまいました。ほかの生徒からの報告で、事故を知った顧問教諭とその他の教員で、事故現場に行き、応急手当を行いました。出血が多かったため、救急車を要請し、顧問教諭同乗の上、病院へ搬送しました。診断の結果、右手首裂傷と診断され、縫合の処置を受けました。学校では安全な部活動の運営について、確認をするとともに、外部指導員等にも同様の活動の際の安全配慮についての確認を行いました。なお、当該生徒ですが、12月上旬に抜糸が済み、現在は元気に学校に登校しております。

○古川教育長

ありがとうございました。

ここまでの事務局報告事項につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

○山田委員

事務局報告事項（1）市議会12月定例会について、質問をさせていただきたいと思います。

14ページ、質問内容11の公民館の件に少し関連して質問をさせていただきたいと思います。

（1）の答弁内容で公民館の部屋の予約開始を延ばすことに関しましては、現行の予約方法をそのままということですが、前の月には借りられるようシステムに団体登録をして、1団体につき月2回までという仕様だったと思いますけれども、そもそも1か月後という借り方、貸し方というものの不便さというのは、いろんなところで声がこれまでも挙がってきたというふうに思っています。1か月くらい先ですとか、確かに予定が立てやすいと申しますか、前の月になると結局、借りたい日は、定期的に借りている団体が借りていて、借りられなかったとなってしまうということで、使い勝手がそこに関しては悪いと、私も市民として感じていたところでございます。

まずは、前の月に登録ができるという、その利点があるのであれば、お教えいただきたい。また、課題整理しながらさまざまな側面から検討してまいります、ということですが、ぜひ私としても検討はしていただけたらと答弁を読みながら思っております。

○照井中央公民館長

公民館の部屋の予約でございますけれども、現在はホール、ギャラリー以外につきましては、利用月の2か月前から予約することができる状況がございます。それよりも前に延ばす利点につきましては、早く予約できることにより、講演会など多くの方が参加する事業の準備を前もってできるという利点がございます。講演会につきましては、チラシの作成や、講師との調整が一定程度前の段階から必要なため、利用団体につきましては、早く予約できることによって、いろいろな準備が早くできるという利点があると認識しております。

○山田委員

ありがとうございます。そうであれば、もう少し前に借りられたほうが良いというのが、借り側の意見だろうと思います。今後、ぜひさらにご検討をいただきまして、市民がより使いやすいようなご配慮をいただけたらというふうに思っております。ありがとうございます。

○照井中央公民館長

先ほど、利点のみご説明させていただきましたが、早く部屋が予約できることにより、とりあえずという形で予約して、その後、キャンセル率が増加する可能性もあり、利用率低下にもつながるおそれがあることから、そのことも踏まえて、利点とマイナス面とあわせて、総合的に検討してまいりたいと考えております。

○山田委員

そういう見解もあるということは、過去そういった事例があるということでしょうか。

○照井中央公民館長

現時点でも、部屋のキャンセルはございます。

また、2か月より前に部屋を予約することにより、一般の団体よりも早く部屋を借りられる分館の定期利用団体との調整も必要となることも含めて、検討してまいりたいと考えております。

○松原地域学習担当部長

直前のキャンセルでございますが、中央公民館だけでも統計をとってみましたところ、毎月6%が直前にキャンセルをするというようなことがありました。そのため、次の方が入るといような余裕がなく、利用されないお部屋になってしまうという実態もありますので、その辺も考慮しながら、予約の受付を何か月前にするかということは検討していきたいと考えております。

○山田委員

ありがとうございます。よく飲食店などの予約も当日キャンセルというものがありまして、どうやら当日キャンセルの場合は、当日キャンセル料を跳ね上げるというようなニュースも最近ございました。ということは、キャンセルをするような方、団体、個人も含めまして、何かしらの措置と申しますか、そういったものも必要なのかなと、そういったところを鑑みて、いろいろと検討していただけていることだと思います。ありがとうございました。

○古川教育長

それを含めての検討ということで、よろしく願いいたします。

○森井教育長職務代理者

私も今の市議会12月定例会の質問に関してですが、15番の2020東京オリンピック・パ

ラリンピックに向けた体力づくりプロジェクトについてというところに関して、各小・中学校で、例えば直接的に体力づくりということではなくても、オリンピックやパラリンピックをお招きして、事業などを行っていると思うのですが、今年度行われたものと、また今後予定しているものに関するも教えていただきたいと思います。

○出町教育指導担当部長

例えば、障がい者のスポーツで言いますと、ボッチャを子どもたちも実際にやってみたり、それから車椅子サッカーの方をお呼びして、実際にどのような動きをするのか、また車椅子に乗らせていただく体験もしております。講演では、いかにしてオリンピック、パラリンピックとして、自分自身が努力してきたかというようなことを聞く、そういうようなことを今年度も行っておりますし、来年度に向けてもそれぞれの学校が企画をしているところでございます。

○森井教育長職務代理者

それぞれの学校で取り組んでいただいているのは知っています。教育委員会としてもそういうことを進めているというところを皆様にご覧いただき、知っていただきたいということもありまして、具体的にご説明していただきたいと思って質問させていただきました。

○古川教育長

ほとんど、どこの学校でもしていますか。

○出町教育指導担当部長

形は違いますけれども、これに取り組んでいないという学校はございません。

○森井教育長職務代理者

それは来年度にも向けて取り組んでいくということでしょうか。

○出町教育指導担当部長

はい。引き続き行います。

○森井教育長職務代理者

よろしく申し上げます。

○高槻委員

事務局報告事項（2）平成29年度児童・生徒の学力向上を図る調査の結果の概要について、資料2の5ページ以降のグラフは、横軸が正答した問題数、20問あったうち何問答えたかというものでしょうか。このグラフの形は平均値の形と同じものでしょうか。

○中村指導主事

5ページの小学校国語では、問題数が20問ございます。20問全問正解した子が、4%弱という見方です。

○高槻委員

このグラフの形は、得点数と同じ形になるものでしょうか。これは正規分布という富士山型のもので、平均値が高く出るものだと思います。わかりやすく説明してください。

○中村指導主事

同じく小学校国語の場合、一番左にある太い縦線が、習得目標値である7問を示しています。それに達していないお子さんが、市で4.7%いることとなります。

○高槻委員

そうすると、細い縦線が正答率でしょうか。

○中村指導主事

はい。平均正答率です。

○高槻委員

6ページの中学校国語は細い線が右側にあります。ほとんどが達成したということでしょうか。

○中村指導主事

平均を下回っている生徒の中にも習得目標値をクリアしている生徒がいるということです。

○高槻委員

読み取り方がよくわかりません。

○中村指導主事

中学校の国語の場合、都の教育委員会が、ここまではぜひ到達してほしいという目安のラインに多くの生徒が到達しているということです。

○高槻委員

そうすると、この縦の太い線というのは、試験をする前に、もう決めているのでしょうか。

○中村指導主事

それは決まっております。

○高槻委員

問題の難易度を予想しているということではなく、科目によって違うということでしょうか。

○中村指導主事

はい。

○高槻委員

わかりました。

○三町委員

確認ですけれども、5ページの例えば、小学校国語でいえば、東京都のほうで、この問題については6問正答してほしいと設定して問題がつくられている。それから若干難しいが、これぐらいとってほしいというところが17問と事前に設定していて、それが結果として、習得目標値7ということに対して、7点未満の子どもの数が、市のほうは4.7%で、都は6.8%、下が少ないという理解でよろしいでしょうか。

○中村指導主事

はい、そのとおりでございます。

○三町委員

私が以前勤めていた自治体のとき使ったことがあります。目標設定値を教育委員会で決めて、それに対して何割がクリアしているという形で、ホームページ含めて公表しました。平均だと結局、単に平均だけで見るので、全体の様子がかみかず意味がありません。この手法は子どもたちも励みになるので活かしてもらえたらありがたいということが、まず1点目です。

2点目ですが、2ページ3ページのところの、数量関係の学習の受けという部分です。今度はデータの活用というところで、表を活用し、データを処理する技能を定着させ、統計的な問題解決の素地を育てる仕組みの充実を図る必要があるということが書かれていて、実際に結果を見ると、正答率(2)のほうは40%前後、それに対して(3)は、市でいうと10%切っています。10人に1人しか正答していないということですが、これは一体どういうことなのか。指導者が悪いのか、問題が悪いのか、これは二つに一つか、両方か、というふうになると思います。本当に指導者が悪いのか疑問に思っています、この(3)のような問題を出して、そしてどう学習につなげるのか私は疑問です。つまり(2)までだったら、小学校4年生で二元表という形で、例えば校庭や廊下など、どこでけがする的多いか、どんなけがの種類が多いかみたいときに、二元表で分析して、そこから結果を求めるということですがけれども、この問題はあくまでも

(3)を求めるための二元表です。(3)で、幾らお金がかかるか、それを問題解決したいために、(2)の表を取り入れましょうと。目的に応じて表を使う。その目的は(3)を求めるためです。ところが、この問題の流れを見ると、それがありません。学習する側にとって、問題を解く側にとっては、つながっていないような気がします。それを知ろうとしてここまで求めるならば、小学校4年生の学習能力が相当厳しくなるのではないかと思います。

これについて、東京都はどんな見解になっているのか、私は指導者だけではここまで教えてできるようにさせるとするのは無理かと思っているので、問題として適切なのか疑問に思います。

○古川教育長

そのことについて都の説明とか、何かありますか。

○出町教育指導担当部長

そのことについての都の説明というのは恐らくなかったと思います。この問題について委員がおっしゃるとおり、目的に応じてというようなところでつながっていないこともありまして、私たちも、この問題について、これがよかったか、悪かったかというところの検討までは、していない部分もあります。ただ、これを見ますと、算数に苦手意識を持っていらっしゃるお子さんについては、取りかかりづらいし、ここまでたどり着かないようなところもありますので、本当に丁寧にやっていく必要があると感じています。

この問題そのものをまず読み取っていくということもひとつ大事なのではないかと感じているところでございます。

○三町委員

データを分析するために集合的なものの見方で、これを(2)で分析していくとそれは小学校4年生で求められている学習内容だと思います。プラスそこから問題を解決するにつなげるというところまでは学習指導要領上に要求されていなかったのではないかと思います。したがって、今回出題された問題を学校で指導するとき、(3)の課題を設定して、そのために表で分析して求めていきたいと思います。気になっています。

学校で扱うときの、これをまともに受けとめて、(3)のような問題を解くために、二次元表を使って解かせるというのは、昭和40年代の算数のレベルという気がします。だから、なぜ出題したのか、よくわかりません。

次に、これはぜひ学校で本当にやってほしいというのが、8ページの児童・生徒質問紙調査の(3)の二つ目と三つ目、「授業の中で目標が示されていると思いますか」、「授業では学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか」というところです。学校に伺っていると、目標目当て等は板書されているとか、見てわかるのですけれども、終わりはほとんど我々は見ないので、実態が分かりません。これを数字で見ると、中学校あたりは少し低いと感じます。つまり余りされていないという3分の1がされていない傾向だろうと思うので、ぜひこちら辺は学校の

ほうに指導していただいて、どの先生も振り返るということを入れていただけたらありがたいと思います。

私はある学校で学校評議員をさせていただいて、そこでは学校の自己評価項目にこの二つが入っています。だから、教員はそれを意識して、実際に自分はやっている、やっていないと評価しているし、子どもも先生がやっている、やっていないと評価しています。そういう形で経営的にうまく生かしている学校がありました。それは、なぜかと聞いたら、この前年度の東京都の調査で、振り返り活動について子どもの評価が低かったので、今年度入れたという話でした。

ぜひ、そういう経営上の視点からも、うまく使ってほしいということを校長先生に伝えていただけたらありがたいと思っています。

○出町教育指導担当部長

ここの振り返りの時間というのは、大事なものでございまして、次の授業につながる大きなポイントがあると思っております。実際には5分くらいは取ろうと、計画は立てていることが多いとは思いますが、授業全体の50分の流れの中で、なかなかそこにいきつかなかったというようなこともあると思っておりますので、しっかりそこも確保できるような授業展開ができるように学校には指導していきたいと思っております。

○高槻委員

さっきのグラフについて、平均値だけで語るよりも、この分布の形が重要だということは非常に共感します。ただ、よい問題というのは、どういう答えが来るかを想定して、平均値が真ん中くらいにきて、左右が対称な富士山型になって、極端に小さい子とか極端に大きい子というのが5%くらいいて、あと20%くらいは、大体は真ん中辺にかたまるといふ分布になるはずですが。目標にしたのが15%くらい、できない子が5%くらい、あとは大体真ん中辺にくるといふ出題がいい問題だと思います。

中学校の国語、真ん中の左は、27問のうち、19問以上が、答える子はよくできる子だということです。結果は平均値がそれを上回ってしまって、正解数の分布は右に偏った非正規分布になっていて、6～7割の子どもがそこにきている。これは問題としてやさし過ぎるということの意味します。そういう理解は正しいでしょうか。

○中村指導主事

この問題自体が適切であったかどうかについては、我々のほうで申し上げることができないところです。

○高槻委員

目指したのが富士山型ではなかったとしたら、それはおかしいのではないのでしょうか。

○出町教育指導担当部長

これは、ここに目標達成の基準をつくったというのは、都教委も学習指導要領だとか、そういうもので、全学年のところまで、ここは必ず習得しておかなければいけないというものを基準に、これを決めているわけですし、何か入試だとか、そういうようなことでつくった問題ではございませんので、これに関しては中学校の子たちは素直にここの目標の達成のところの習得ができていたと捉えるのが、今回のこのテストの趣旨には合うと思っております。

○高槻委員

それが科目によって大幅に違うというのは、どういうことでしょうか。

○出町教育指導担当部長

科目によって大きく違うというのは、きちんと習得がなされていなかったと私たちは捉えます。その部分について、分析をして、なるべく子どもたちが、達成の生徒の割合が右に動くような指導を今後していかななくてはいけないということと、私たちは捉えております。

○高槻委員

問題をつくったときに正解はこうなるだろうという予測とが大きくずれるのは、出題として不適切ではないかと思えます。なるべく多くの子どもが理解するのを目指すのはいいことですが、現実にはそうでない想定もしているはずで。

例えば、左下の中学校数学では29問のうち、23問以上は答えてほしいとしているのですが、10%くらいしかないわけで、これを60%とするか10%くらいでとどまるのがあるということとは、初めから想定していて、それでいいと思っているのかどうかというのがよくわかりません。

○出町教育指導担当部長

出題のところで、そこがはじめから予想していたかどうかというのは、つくったのは東京都でございますので、私のほうでこうだということは言えませんけれども、子どもたちがこの全学年でここまで学習をしておいてほしいというのが、どの教科にもあるわけです。それを飛び越えてきたというか、そこに入ってきたお子さんがこれだけいたというふうな捉え方を私どもはしております。

○高槻委員

事実はそうです。私が訊いているのは、事実がそうであるというのではなくて、どういうイメージで問題をつくり、その想定したものと結果がずれたときに、もっと努力しないといけないとか、これでよかったのだという評価になるわけです。それが科目によって10%から60%まで幅があるというのは大きな幅がありますが、そういうものなんでしょうか。

○古川教育長

それはまた都のほうに聞く機会があれば確認していただければと思います。

○荒木教育施策推進担当課長

習得目標値が教科によって数のブレがあるのは、教科書で例題レベルの問題が何問ということをやっております。中学校の国語でいうと、11問が習得目標値ということになっているのですが、その習得目標値に入っている例題レベルの問題のうち6問は、漢字に関する問題でございます。ですから、解けた生徒が多いと推測されます。

教科によっては多い少ないというところはあると思います。到達目標値のほうは、教科書の練習問題レベルを例題レベルに達したもので習得値ということにしているという、東京都の説明がございました。

○高槻委員

よくわかりました。

三町委員が言われたように、教える側としては、こういう目標で、こうなってほしいということで、平均値よりいいと思います。

○古川教育長

よろしいでしょうか。

○森井教育長職務代理者

事務局報告事項（5）小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、昨年もお願ひしたかと思いますが、62番のルネこだいら吹奏楽フェスティバルの主催団体に、小平市内の4つの中学校が出ています。昨年と同じ4つの中学校が出演されました。小平市内の、これ以外の4つの中学校にも吹奏楽部があることから、お声をかけてくださいとお話ししたかと思いますが、声はかけているというような回答をいただいたかと思いますが、今年度もやはり同じ中学校の参加しかないところが大変残念です。引き続き、せっかくルネこだいらの大舞台で演奏できる良い機会であると思いますので、ぜひほかの中学校にも参加していただけるようお声をかけていただきたいと思います。

○余語教育総務課長

引き続きお声をかけてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○森井教育長職務代理者

よろしく申し上げます。

○古川教育長

あとはよろしいですか。

ーなしの声ありー

○古川教育長

以上で、事務局報告事項を終了いたします。

以上で冒頭に非公開と決定したものを除く議題は終了いたしました。これ以降の議事は非公開にて取り扱いますので、関係者以外の方は、ご退席願います。

ここで休憩したいと存じます。3時20分まで休憩いたします。

午後2時59分 休憩